

登録コード	L1641201	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	心理学特殊実験Ⅱ						
英文授業名	Psychology：Advanced ExperimentsⅡ						
授業タイトル	心理学特殊実験Ⅱ						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文206 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ，2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	身の回りのありふれた事柄や出来事について，社会心理学の研究知見に基づいて，科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより，自明とされる事柄に対し，深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身に付くようになる		
	【2022年度以前カリ対象】 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	心理学の研究知見に対する知識を獲得し，自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。これにより，過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身に付くようになる		
	【2022年度以前カリ対象】 情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	社会心理学の研究知見に基づいて，論文を読解し，他者に正しく伝えることができるようになる。これにより，情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身に付くようになる		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】 人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	身の回りのありふれた事柄や出来事について，社会心理学の研究知見に基づいて，科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより，人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる		
	【2023年度以降カリ対象】 専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	社会心理学の研究知見に対する知識を獲得し，自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また，心理学の研究知見に基づいて，論文を読解し，他者に正しく伝えることができるようになる。これにより，専門的学力を基盤とし，持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	「授業計画」に示した第7回までの段階は，ゼミ形式の全体指導を通して行う。第8回以降の段階に関しては個別指導を受けながら各自で行うが、分析の結果や論文作成作業の進展状況等を逐次，ゼミで報告し，全体の知としてフィードバックする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：社会心理学における研究について理解を深める 第2回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定：グループ・ディスカッションによって，データ収集と解析の方法を確定する 第3回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成する 第4回：実験・調査の準備(2)：グループ・ディスカッションによって，実験シナリオ・質問紙を確定する 第5回：実験・調査の準備(3)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする 第6回：実験・調査の準備(4)：予備実験・調査結果を基に，実験シナリオ・質問紙を改善する 第7回：結果の分析と考察(1)：データ分析の概要を学ぶ 第8回：結果の分析と考察(2)：統計ソフトウェア（HAD）の操作方法を学ぶ 第9回：結果の分析と考察(3)：統計ソフトウェア（HAD）を用いて、データを分析する 第10回：結果の分析と考察(1)：仮説検証のための分析を行う（記述統計） 第11回：結果の分析と考察(2)：仮説検証のための分析を行う（t検定・分散分析等） 第12回：結果の分析と考察(3)：仮説検証のための分析を行う（重回帰分析・SEM等） 第13回：結果の分析と考察(4)：解析結果についての解釈を行う 第13回：研究成果のまとめと論文の作成(1)：研究成果をレポートとして纏める 第14回：研究成果のまとめと論文の作成(2)：レポートに対する講評に基づき，レポートを洗練させる 第15回：まとめ，講評，授業アンケート						
成績評価の方法	授業への積極的参加（50％）と論文の質（50％）により評価する。						
成績評価の基準	提出されたレポートについて，以下の1～6までの5項目を満たしていれば「卓越している」，4項目なら「かなり上にある」，3項目なら「やや上にある」。2項目なら「その水準にある」とする。 1.問題・目的で、当該論文で何を問題・目的とするのが明確に記述されている 2.方法で，実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3.結果が，実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4.考察で，得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5.引用文献が，所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.論文全体が，自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている						

事前事後学習の内容	自分の研究関心に基づいて文献研究を行う。
履修上の注意	「心理学基礎実験I・II」及び「社会心理学(基幹/発展)演習」を履修した者を対象とする。社会心理学分野で卒業論文を作成する者は、社会心理学分野のいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にも、メールで連絡をしてもらえれば個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。
教科書	各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。